
ストーム×チルドレン

暁月夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストーム×チルドレン

【Nコード】

N8128M

【作者名】

暁月夜

【あらすじ】

西秋高校番長・神田朔夜は、ライバル・新中央高校を潰すため、他校と同盟を組み、行動に出る。

バカな奴らによる、バカな話を、バカ共が暴れます。

？ 1 漆黒の魔王

ヒュルルル――。

風の音が彼ら達を呼び覚ました。

夕暮れに二つの大きな影――。

いや、集団と言ったらいいのだろう。

7時のチャイムが鳴り、校庭には集団以外、誰もいなかった。

「おいおいおい、待たせてんじゃねーよ」

片方の、ピアスだらけの顔に金髪の男が言った。目つきは鋭く、イラついていた。

その灰色の制服を着た集団の反対側には、漆黒の制服を着た集団がいた。

肩に金属バットをのせ、クチャクチャとガムを噛んでいる。

「悪いーな。この前の借り、返してやるよ」

漆黒の髪・目・制服という姿のリーダー格の男が言った。その姿は、悪魔のようだった。

「ぶっ殺してやるよ。行くぞ、テメェら！」

灰色の集団は一気に押し寄せてきた。

リーダーの男の横に不良とは思えない、眼鏡の男がいた。

「奴ら、結構鈍いね」

「俊、お前は下がってる。頭脳派は引っ込め」

はいはいと俊と言われる男は、背を向け、引っ込んでいった。

「さて、8分・・・いや5分で片付けるか」

男は、灰色の集団に突っ込んでいった。

* * *

—— 5分後。

景色が一変した。

灰色の集団はみな倒れ、男はケガ一つなく立っていた。

「虫ケラめ」

そう吐き捨て、見下した。

西秋高校。

漆黒の魔王として、恐れられている番長・神田朔夜は2年制ながらにして西秋を支配している。

この辺りは、不良が多くて有名な場所として知られている。

「ちよつと、何やってるんですかつ！」

すると、突然少女の高い声が聞こえた。

朔夜は、その少女の方を見た。

少女は、校庭を走り、朔夜のもとまでやって来た。

「はぁ・・はぁ・・。ケンカはいけませんよっ」

息を切らしながらも、注意した。

少女の胸元には、生徒会のバッヂがついていた。

朔夜は、無視して背を向けた。

「ちよつと、聞いてるんですかつ？」

「——うぜえ」

朔夜は、振り返ると、ガッとして少女の胸ぐらを掴んだ。服がめくり上がったが、少女はキッと睨んだ。

「二度と近寄るな」

「やめてくれるんですか？」

朔夜は、もう片方の腕を振り上げ、殴る体勢をしていた。しかし、少女は泣きそうな顔をすることなく、ずっと朔夜を見ていた。

朔夜は呆れて、少女を放り投げると、校庭から去って行った。

「待ってっ！」

朔夜は立ち止まった。

「そんなに良い子ちゃんがいいのか？」

「違います。任務です。」

「は？」

「詳しくは言えませんが・・・生徒会副会長としての仕事なんですっ」

「——フツ。バカだな」

そして、また歩き始めた。

「ケンカは外でやってくださいっ！！」

背後から、少女の叫ぶ声が聞こえた。

* * *

翌日。

朔夜は、俊と屋上でサボッていた。

朔夜は爆睡、俊はお菓子を食べながらパソコンをしていた。

すると、突然屋上のドアが勢いよく開いた。

その音で朔夜は、目を覚ました。

現れたのは、昨日の例の少女。

少女はフェンスに頭を何度もぶつけ始めた。

「おいおい、あの子ヤバイよ」

俊が鼻で笑った。

すると、少女はフェンスを登り始めた。

「わ、自殺。」

俊が目を丸めた。

朔夜は、まさかと思い、起き上がると少女の所へ行き、腕を引っ張った。

「きゃっ」

少女はバランスを崩し、朔夜にぶつかり、朔夜は尻餅をついた。

「——て。お前——」

「あなたはっ」

少女は、急いで朔夜から離れた。

「自殺か」

「はい？何言ってるんですか。フェンスに頭をぶつけた時、バツチを落としたから取りに——」

朔夜は、呆れてため息を吐いた。

「でも、何で頭？」

「聞いてください。新中央高校の不良達が西秋の生徒をケガさせたんです。何か、悔しくて——」

「お前、真面目だな」

「いえ、私のバカ兄弟も不良なので、仲間がケガさせられたりしたら腹が立つんです。」

「そうか。じゃあ、新中央潰すか」

「え？」

朔夜は平然とした顔で言った。

「俺もアイツら嫌いだしな。ここは一つ、いくつか同盟組んで潰すか。お前、バカ兄弟に頼んでくれ」 「お前じゃありません。桃野美桜です。」

少女・美桜はニツコリと笑った。

「やれやれ」

ずっと、横で聞いていた俊はため息を吐いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8128m/>

ストーム×チルドレン

2010年10月28日05時31分発行